

平成 28 年度
視察等の届出・報告書
(届出番号 13~15)

平成 28 年度 視察等の届出・報告書 (13~15)

届出 番号	訪問日	氏名	参加者	訪問先・内容
13	10/19~21	福島一則	池田文治・氏平篤正	静岡県静岡市 (第 11 回全国市議会議長会 研究フォーラム)



様式第1号

平成27年10月12日

真庭市議会

議長 竹原茂三 殿

真庭市議会議員 福島一則



調査研究、研修会、要請・陳情活動届

政務活動費を使用して、下記のとおり研究、調査等を行いますので届けます。

記

1 区分 調査研究 研修会 要請・陳情活動

2 訪問先 静岡市駿河区池田79-4

グランシップ大ホール

3 内容 全国市議会議長会

研究フォーラム in 静岡

参加者名簿

福島一則、池田文治、氏平 篤正



10/19-21

注) 複数の議員で実施する場合、代表者の届けでよいが、参加議員名簿を添付すること。

日程

10月19日(水)

久世発7時00分～(中国道～岡山自動車)岡山駅

岡山駅(新幹線)8時49分発～名古屋～静岡駅12時30分着

13時 基調講演、パネルディスカッション

10月20日(木)

9時～課題討議

11時～静岡エコパスタジアム視察

スマートアグリカルチャー磐田視察

10月21日(金)

湖西市小松楼まちづくり交流館視察

浜松市沿岸域防潮堤視察

浜松駅14時30～(新幹線)名古屋～岡山駅着17時30分

岡山駅(岡山自動車～中国道)久世19時着



様式第2号

報告書

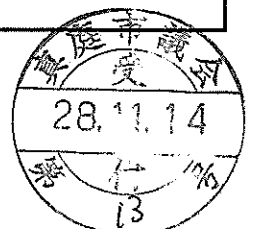
平成28年 10月25日

報告者 真庭市議会議員 氏名 福島 一 則



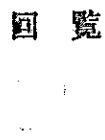
下記のとおり政務活動費を使用して 調査研究・研修会・要請陳情活動をしましのでその結果を報告いたします。

1	日 時	自 平成28年10月19日（午前・午後）7 時00 分 至 平成28年10月21日（午前・午後）22 時00 分
2	場 所	静岡市駿河区池田79-4 グランシップ大ホール ----- 静岡県、掛川市、袋井市、磐田市、浜松市、湖西市 ----- -----
3	用 件	ヤマハリゾートつま恋、スポーツを主として音楽活動などの 複合施設視察、 ----- 静岡エコパスタジアム、 多目的競技場視察 ----- スマートアグリカルチャー磐田 ----- ICTにより環境制御された大型ハウス、農作物を種苗の 研究開発から生産、加工、販売、まで一貫して行う農業 の視察 小松楼まちづくり交流館 町並みの創造と活力ある町の形成と豊かで活力ある生活を 実現することを目的とした地域の景観計画の事例の視察 浜松市の沿岸防潮堤 南海トラフ巨大地震に備え浜松市が役割分担して整備 している、津波対策の防潮堤視察 浜松市楽器博物館 日本で唯一の公立楽器博物館、（世界の楽器と音楽を 平等に扱う）という世界に誇るコンセプトと展示や多様な 活動など視察



平成 28 年度 視察等の届出・報告書 (13~15)


届出 番号	訪問日	氏名	参加者	訪問先・内容
14	10/26~27	緒形尚	入澤廣成	京都府綾部市（全国水源の里シンポジウム）・ 大阪市・(株) 地方議会総合研究所（地域包括 ケアシステム研修会）



様式第1号

平成28年10月24日

真庭市議会
議長 竹原 茂三 殿

真庭市議会議員 緒形 尚 

調査研究、研修会、要請・陳情活動届

政務活動費を使用して、下記のとおり研究、調査等を行いますので届けます。

記

1 区 分 調査研究 研修会 要請・陳情活動

2 訪 問 先

- ①京都市中丹文化会館（京都市綾部市里町）
- ②TKP大阪淀屋橋カンファレンスセンター
（大阪府大阪市北区中之島）

3 内 容

- ①第10回全国水源の里シンポジウム参加
- ②地域包括ケアシステム研修会

4 行 程 別紙のとおり 10/26~27

5 事務局から訪問先への依頼 必要 ・ 不要

(注) 複数の議員で実施する場合、代表者の届けでよいが、参加議員名簿を添付すること。



日程表

日程：2016年10月26日～10月27日
 参加者：入澤 廣成、緒形 尚

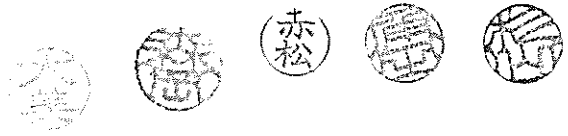
日 時	行程スケジュール	備 考
10月26日(水)	<p> 8:00 蒜山 (入澤宅) → 車(国道313) → 湯原 (緒形宅) 8:20 → 中国道 → 吉川JCT 10:00 → 舞鶴若狭道 ↑ 11:00 綾部IC → 中丹文化会館 → 中丹文化会館 → 全国水源の里シンポジウム 11:10 吉川JCT 18:30 → 中国道 → 神戸三田IC 18:40 → 六甲北有料道路 ↑ 17:20 中丹文化会館 → 府道74・77 舞鶴若狭道 → 吉川JCT 18:30 → 中国道 → 都市高南港北IC 19:20 → 一般道 ↑ 住吉IC → 阪神高速5号湾岸線 → 中島IC 19:15 → 阪神高速4号湾岸線 </p>	<p> (宿泊) ホテルコスモスクエア国際交流センター 連絡先 06-6614-8711 </p>
	ホテルコスモスクエア国際交流センター(到着:19:25)	

日 時	行程スケジュール	備 考
10月27日(木)	<p>ホテル</p> <p>↑ 車</p> <p>↑ TKPカンファレンスセンター</p> <p>↑ 阪神高速11号</p> <p>9:00</p> <p>9:30</p> <p>池田IC</p> <p>↑ 中国道</p> <p>↑ 湯原 (緒形宅)</p> <p>↑ 国道313</p> <p>13:00</p> <p>13:20</p> <p>15:10</p> <p>15:30</p> <p>↑ 車</p> <p>↑ TKPカンファレンスセンター</p> <p>↑ 地域包括ケアシステム研修</p>	

◆ 参加議員

・ 入澤 廣成

・ 緒形 尚




様式第2号

報 告 書

平成28年 12月 13日

真庭市議会議長 竹原 茂三 殿

報告者 真庭市議会議員 氏名 緒形 尚 

下記のとおり政務活動費を使用して 調査研究・研修会・要請陳情活動をいたしましたので、その結果を報告いたします。

1	日 時	自 平成28年10月26日 (午前) 午後) 5時 00分 至 平成28年10月27日 (午前) (午後) 6時 30分
2	場 所	・ 京都府綾部市里町久田21-20 京都府中丹文化会館 ・ (株) 地方議会総合研究所：大阪会場
3	用 件	第10回全国水源の里シンポジウム・地域包括ケアシステム研修会 ・ 基調講演およびパネルディスカッション ・ 地域包括ケアとは ・ 地域包括ケアのねらい ・ 地域包括ケアの課題
4	概 要	別紙にて報告



● 地域包括ケアシステムの実現に向けて

日本は、諸外国に例をみないスピードで高齢化が進行しています。65歳以上の人口は、現在3000万人を超えており（国民の約4人に1人）、2042年の約3900万人でピークを迎え、その後も、75歳以上の人口割合は増加し続けることが予想されています。

このような状況の中、団塊の世代（約800万人）が75歳以上となる2025年（平成37年）以降は、国民の医療や介護の需要が、さらに増加することが見込まれています。このため、厚生労働省においては、2025年（平成37年）を目途に、高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもとで、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域の包括的な支援・サービス提供体制（地域包括ケアシステム）の構築を推進しています。

● 地域包括ケアシステム

地域包括ケアシステム1団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を実現していきます。

今後、認知症高齢者の増加が見込まれることから、認知症高齢者の地域での生活を支えるためにも、地域包括ケアシステムの構築が重要です。

人口が横ばいで75歳以上人口が急増する大都市部、75歳以上人口の増加は緩やかだが人口は減少する町村部等、高齢化の進展状況には大きな地域差が生じています。地域包括ケアシステムは、保険者である市町村や都道府県が、地域の自主性や主体性に基づき、地域の特性に応じて作り上げていくことが必要です。

● 地域包括ケアシステムの捉え方

地域における生活の基盤となる「住まい」「生活支援」をそれぞれ、植木鉢、土と捉え、専門的なサービスである「医療」「介護」「予防」を植物と捉えています。・植木鉢・土のないところに植物を植えても育たないのと同様に、地域包括ケアシステムでは、高齢者のプライバシーと尊厳が十分に守られた「住まい」が提供され、その住まいにおいて安定した日常生活を送るための「生活支援・福祉サービス」があることが基本的な要素となります。そのような養分を含んだ土があればこそ初めて、専門職による「医療・看護」「介護・リハビリテーション」「保健・予防」が効果的な役目を果たすものと考えられます。

● 医療と介護の連携について

疾病を抱えても、自宅等の住み慣れた生活の場で療養し、自分らしい生活を続けられるためには、地域における医療・介護の関係機関が連携して、包括的

かつ継続的な在宅医療・介護の提供を行うことが必要です。厚生労働省においては、関係機関が連携し、多職種協働により在宅医療・介護を一体的に提供できる体制を構築するための取組を推進しています。

● 生活支援サービスの充実と高齢者の社会参加

今後、認知症高齢者や単身高齢世帯等の増加に伴い、医療や介護サービス以外にも、在宅生活を継続するための日常的な生活支援（配食・見守り等）を必要とする方の増加が見込まれます。そのためには、行政サービスのみならず、NPO、ボランティア、民間企業等の多様な事業主体による重層的な支援体制を構築することが求められますが、同時に、高齢者の社会参加をより一層推進することを通じて、元気な高齢者が生活支援の担い手として活躍するなど、高齢者が社会的役割をもつことで、生きがいや介護予防にもつなげる取組が重要です。

平成 28 年度 視察等の届出・報告書 (13~15)

届出 番号	訪問日	氏名	参加者	訪問先・内容
15	10/19~20	河部辰夫	初本勝・築澤敏夫・ 妹尾昇・小田康文	静岡県静岡市 (第 11 回全国市議会議長会 研究フォーラム)

様式第1号

平成28年 7 月 27 日

真庭市議会
議長 竹原茂三殿

真庭市議会議員 河部辰夫 印

調査研究、研修会、要請・陳情活動届

政務活動費を使用して、下記のとおり研究、調査等を行いますので届けます。

記

- 1 区 分 調査研究 研修会 要請・陳情活動
- 2 訪 問 先
 静岡県静岡市駿河区 池田ツタ
 クラシック ホテル・海
 静岡県コバシヤンリゾート
- 3 内 容
 第11回
 全国市議会議長会
 研究フォーラム in 静岡
- 4 行 程
 別紙のとおり
 参加議員 河部辰夫、初本勝、築澤敏夫、
 林尾昇、小田康文
- 5 事務局から訪問先への依頼 必要 不要

(注) 複数の議員で実施する場合、代表者の届けでよいが、参加議員名簿を添付すること。






報告書

平成28年10月 日

真庭市議会議長

殿

報告者 真庭市議会議員 氏名

築澤敏夫 

下記のとおり政務活動費を使用して 調査研究・研修会・要請陳情活動をいたしましたので、その結果を報告いたします。

<p>1 日 時</p> <p>自 平成28年10月19日 (午前・<u>午後</u>) 10時00分</p> <p>至 平成28年10月20日 (<u>午前</u>・午後) 9時00分</p>
<p>2 場 所</p> <p>静岡県静岡市駿河区 洪田 79-4</p> <p>クラシィオ カナル・海</p> <p>静岡県 J2A×3A×刀-Yセ27-</p>
<p>3 用 件</p> <p>第11回全国市議会議長会</p> <p>研究フォーラム in 静岡</p>
<p>4 概 要</p> <p>別紙のとおり</p> <p>(裏面)</p>



第11回全国市議会議長会研究会 静岡県 静岡市

第1日目 平成28年10月19日(水) 10:00開会

第2日目 平成28年10月20日(木) 9:00開会

場所 静岡県 静岡市 静岡県 静岡市 静岡市

全国市議会議長会主催で 後援は総務省

実施は第11回全国市議会議長会研究会実行委員会

目的は 全国の市議会議員の一堂に会し、主要な

地方議会の機能強化を目指す。共通の課題や

今後の議会あり方について意見交換を行うこととし、

議員同士の一層の連携を深めることとする。

今回は、監視権の活用に関する議会改革や監視権を

如何に行使するかが、議会の監視権のあり方に関

して広く討議される。

【プログラム】

第1日目(10月19日)

第1部 基調講演「二元代表制と議会の監視機能」

大森 彌 東京大学名誉教授

第2部 パネルディスカッション「監視権の活用に関する課題」

コーディネーター 佐藤 俊昭 山梨学院大学経済学部長

パネリスト 斎藤 誠(長野大学教授) 柳 泰規(新潟大学教授)

〃 岩 隆徳(山梨学院大学) 栗田 裕之(静岡市議会)

次期開催地 姫路市議会報告

第3部 意見交換会

第2日目(10月20日)

第4部 課題討議「監視権を如何に行使するべきか」

コーディネーター 佐々木 信夫 中央大学教授

事例報告者 佐賀 裕樹(横浜市長) 井上 直樹(静岡市議)

山崎 清便(日田市議)

第5部 視察「A」静岡市 都市再生整備計画 市例視察

歴史文化や眺望などの地域資源の保全と活用。対地域力の向上に
向けに取り組む視察を実施した。